

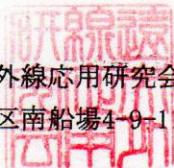
試験結果報告書

No.211S- 504

平成23年5月23日

株式会社ワーセラ 殿

遠赤外線応用研究会
〒542-0081 大阪市中央区南船場4-9-11



試験項目 Bhadoお元気フェイス使用による人体還元化試験

試料 Bhadoお元気フェイス

試験条件 1) 試験日時 平成23年5月18日～5月23日
2) 測定環境 平均室温20°C 平均湿度43%
3) 測定機器 (株)リップアンドラブ社製 唾液酸化還元測定器

試験方法 女性モデル(51才)を被験者とし、測定環境に30分間慣らした後、使用前のだ液の酸化還元電位を測定した。次に、Bhadoお元気フェイスを20分間使用し、直後のだ液の酸化還元電位を同様に測定した。
この試験を2日、3日、6日目も実施し、比較した。

試験結果

Bhadoお元気フェイス使用による人体の酸化還元電位(mV)

	初日	2日目	3日目	6日目
使用前	+88	+83	+72	+64
使用20分後	+81	+75	+60	+12
低減値	-7	-8	-12	-52

考察 Bhadoお元気フェイスを1日20分間使用することで、6日後には人体の酸化還元電位は初日の+88に比べて+12となり、76低下した。このモデルの場合、試験前が+88で完全に体質が酸化状態を示していたが、6日間の使用で、+12と明らかに還元状態に移行している。
この要因が個人差によるものかどうかは分からないが、Bhadoお元気フェイスを長期間使用することで、生体の健康目安である還元状態に導くことが確認された。
なお、測定は各3回実施し、その平均値とした。

以上